ISSN 2436-8121

令和５年度

宮城県遺跡調査成果発表会

発　表　要　旨

会　場：山元町中央公民館大ホール
日　時：令和５年１２月１０日（日）
　　１０時２０分～１６時００分
主　催：宮　城　県　考　古　学　会
共　催：宮　城　県　教　育　委　員　会
　　山　元　町　教　育　委　員　会
　　宮城県史跡整備市町村協議会

令和５年度　宮城県遺跡調査成果発表会　発表要旨

2023 年度姥沢遺跡の発掘調査の概要

菅野智則（東北大学埋蔵文化財調査室）
鹿又喜隆（東北大学大学院文学研究科）

（１）調査要項

遺跡名称：姥沢遺跡（宮城県村田町沼田字姥沢 79・80 番地）
調査原因：学術調査
調査主体：東北大学埋蔵文化財調査室、東北大学大学院文学研究科考古学研究室
調査担当：東北大学埋蔵文化財調査室　特任准教授　菅野智則
　　東北大学大学院文学研究科考古学研究室　教授　鹿又喜隆
調査協力：村田町教育委員会、村田町歴史みらい館
調査期間：2023 年９月１日～９月 12 日
調査面積：30.31㎡
調査参加者：王　晗（大学院文学研究科研究助手、大学院文学研究科博士後期課程）
　　椿野智之、三浦　紘、結城　駿（大学院文学研究科博士前期課程）
　　楠　裕人（学部４年生）、小出遥香、田中康太（学部３年生）、
　　井坂佳鈴、千葉駿介、長橋　杏、根本悠世（学部２年生）
体験学習協力：柴田恵子（埋蔵文化財調査室専門職員）
町内小学生体験発掘：９月４・５・６日実施、村田小学校・村田第二小学校６年生（合計 83 名）参加

＊所属、学年等はその当時のものです。

（２）調査の目的

村田町姥沢遺跡は、これまでに地元の方により表面採集されてきた資料から、縄文時代をはじめとして、弥生時代以降も続く遺跡であると考えられます。その中でも、とくに縄文時代中期中葉から後期前葉にかけての遺物が多く、地形等の状況から竪穴住居跡等の遺構の存在も想定できます。本調査では、こうした姥沢遺跡の発掘調査を通じ、縄文時代中期から後期にかけての居住形態の実態について研究することを目的としています。

姥沢遺跡が位置する村田町周辺地域において、縄文集落遺跡の発掘調査事例は多くはありません。村田町より南部の蔵王町・白石市における当該期の集落遺跡（菅生田遺跡 : 丹羽ほか 1982・二屋敷遺跡 : 加藤ほか 1984）の発掘調査事例からは、往々にして関東や北陸等の別地域の土器が混ざり、敷石住居跡等の関東・中部地域の特徴が混在する様相が見受けられます。この様な状況を踏まえますと、本調査により、宮城県南部と遠隔地との地域間交流を考える上で、さらに重要な知見を得られるものと考えられます。

2019 年度は、竪穴住居跡等の遺構や土器等を含む遺物包含層を探すための確認調査を実施しました（図１）。調査は、調査対象範囲全域に分布するように１～６区を設定し実施しました。各地点で様々な成果はありましたが、とくに２・６区では遺物が多く出土することを確認しました。

2020 年度は、前年度の調査成果に基づきその２地点について、さらに内容を確認すべく調査範囲を広げて、発掘調査を実施しました。また、測量のための区画を設定しました。２区は K・L- ６区、６区は H・G-20 区となります。旧２区周辺の K・L- ５～７区では縄文時代中期後半の遺物包含層と土坑、H・G-20 区では縄文時代後期前半期の遺物包含層等を確認しました。

2021 年度は、H-20 区の調査を継続するとともに、さらに東側（I・J-20 区）に範囲を広げ、縄文時代後期前葉の遺物包含層の内容確認調査を行いました。なお、東側への調査区の拡張にあたっては、拡張前に東北大学東北アジア研究センターによる「最新科学による遺跡調査ユニット」（代表:佐藤源之）の活動として地中レーダ探査（GPR: Ground Penetrating Radar）を行って頂き、その成果に基づいて拡張区を決めています。同様の探査を 2022 年度にも行っています。

2022 年度には、J・K-20 区を中心として遺物包含層の広がりと内容、その下部を確認すること目的とした調査

図１　姥沢遺跡調査区

を行いました。北側のＪ・K-19 区では、遺物を含まない地山層（硬い黄色粘土層・岩盤等）を現表土直下に確認しました。これらの調査結果から、Ｊ・K-20 区の遺物包含層は、南西方向へと傾斜する地形であることが判明しました。また、K-20 区の遺物包含層は、とくに遺物の出土量が多ため、この遺物包含層を掘り切ることはできませんでした。

2023 年度は、この遺物包含層を全て掘り下げ、堆積層全体を確認することを目的としました。また、これらの遺物包含層を形成した居住地を探索するため、斜面上方にあたる、Ｌ～ N-13 区の調査を行うこととしました。

なお、2022 年１月 19 日に、本学文学研究科・埋蔵文化財調査室と村田町教育委員会との間で「文化財の研究・活用に関する相互協力協定」を締結しました。この協定では、包括的な連携のもと相互の人的・知的資源及び研究成果等の交流を促進し、文化財の研究・活用分野において協力し、地域における文化事業の振興と人材育成に寄与することを目的としています。今回の姥沢遺跡の発掘調査や、昨年度より実施している村田小学校、村田第二小学

校の６年生を対象とした体験発掘も本協定に基づいて実施しました。

（３）調査の概要（図２）

①Ｌ～ N-13・14 区（7.58㎡）

１m× ８m のトレンチを設定し、遺構等の確認を行いました。その結果、現在の表土層直下から、遺物を含まない地山層が確認され、遺物等を含む縄文時代の地層は削平されていることがわかりました。しかし、地山に掘り込まれた土坑を数基確認することができました。この土坑からの出土遺物は無いため正確な時期は不明ですが、そのうち２基の土坑から炭化物を採集していますので、今後放射性炭素年代測定を行い、その年代について確定させたいと考えています。

② K-20、I・J-21 区（22.46㎡）

I・J-21 区の調査では、包含層の広がりを確認するため、表土のみを除去しました。この区画では、現在の表土・耕作土下から、他の隣接する区画と同様に遺物包含層を確認することができ、南側に向かって広がっていることが判明しました。なお、この表土除去の際に、昨年度に引き続き村田町内小学校の体験発掘を９月４～６日に実施しています。

K-20 区では、昨年度より引き続き包含層の掘り下げを行いました。この区の遺物包含層は、2e ～ 2i 層の５層に分層することができ、それぞれの層の遺物量は非常に多いものでした。今年度掘り下げを行った遺物包含層は、下部の 2g ～ 2i 層の３枚となります。この２層の下部の３層は黒色の土層であり、これまでの周辺の調査区でも一般的に認められるもので、その土質から過去の表土層と考えています。

（４）調査のまとめ

今年度の調査では、丘陵上面部の遺構確認と下面部の遺物包含層の内容確認を行いました。

その結果、上面部では遺構を確認することができました。ただし、遺構に伴う出土遺物が無いため時期比定が難しいことから、慎重に遺構の時期や性格を検討する必要があります。下面部では、狭い面積ながらも２層とした遺物包含層を掘り上げました。今後、その整理を通じて、遺物包含層の内容等について検討していきたいと考えています。

この姥沢遺跡の調査は、2023 年度で５年目となりました。これまでに出土した遺物量も膨大であることから、その調査成果をとりまとめた報告書の刊行を、2024 年度に行うことを目指しています。報告書刊行後には、改めて調査計画を策定し、遺構の確認や、中期の遺物包含層の内容確認等を行い、姥沢遺跡の性格に関するさらなる研究を進めていきたいと考えています。

参考引用文献

加藤道男ほか 1984『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅸ』宮城県文化財調査報告書 99 宮城県教育委員会

丹羽　茂ほか 1982『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅶ』宮城県文化財調査報告書 92 宮城県教育委員会

2023 年度発掘調査の様子

前半は炎天下の中での発掘のため、テントと扇風機を併用して調査を行いました。後半は小学生の体験発掘の際にもテントは役立ちました。これらの機材は、樫村美和子様からのご寄付によるものです。感謝申し上げます。

１．2023 年度調査区遠景（下が北）

２．L ～ N-13・14 区（上が北）

３．K-20 区 2i 層検出状況（左が北）

４．K-20 区 2i 層遺物出土状況（上が北）

図２　2023 年度調査状況

令和５年度　宮城県遺跡調査成果発表会　発表要旨

発行日：令和 5 年（2023）年 12 月 10 日

編　集：宮城県考古学会企画幹事会

発　行：宮城県考古学会
郵便振替口座　02210 - 1 - 41729
〒980－8576　宮城県仙台市青葉区川内 27－1
東北大学大学院文学研究科考古学研究室気付
e-mail　info@m-kouko.net

印　刷：有限会社中村印刷
〒981-4262　宮城県加美町字一本杉 215